

まえがき

世界平和アピール七人委員会は、平凡社の創立者であり世界連邦建設同盟の理事長であった下中弥三郎の呼びかけに応じて、組織の代表ではなく人道主義と平和主義を大切にする個人として参加した湯川秀樹、平塚らいてうたち7人によって、1955年に発足しました。今年が創立60周年にあたります。

この年は第五福竜丸が被曝したビキニ水爆実験の翌年であり、湯川秀樹も参加して、核兵器と戦争の廃絶の必要性を訴えるラッセル・アインシュタイン宣言が7月に発表されていました。冷戦が続き、米ソの核兵器実験が相次いで行われ、米ソに続いて英国が水爆製造計画を発表し、フランスも原爆製造計画を発表した年です。最初のアピールは、戦争を絶滅し恒久平和を実現するために国連を強化して、世界連邦にまで発展させることを求める国連第10回総会にむけた呼びかけであり、国連と各国の首脳に送られました。次は、翌1956年に米国大統領、ソ連首相、英国首相にあてた水爆実験中止を訴えるアピールでした。

それ以来、戦争を放棄した日本国憲法と国連憲章の基本である平和理念を一貫して大切に、世界中のすべての一人ひとりが安心して安全に生きていける社会の実現を目指して、不偏不党の立場から自由に意見を交換し、全員が合意した問題について国内・国外にアピールを発表してきました。アピールの件数は114に達しています。委員は、欠員が出ると補充するという形で7人の枠を維持してきました。

一方2004年からは、国内各地で毎年講演会を開催しています。テーマは、基本理念に沿ってその時々話題をとりあげ、講師は年ごとに委員が交代して務めながら、全員が原則として毎年パネル討論に参加するという形で実施してきました。これは、直接会場で語りかけ、質問・意見を聞くこともできる機会を大切にしたいと思ったからです。

2014年には、東京の明治学院大学国際平和研究所と共催して、11月4日に同大学白金キャンパスで「重大な岐路に立つ日本」をテーマにした講演会を開きました。これは本書6ページで紹介した最近の七人委員会のアピールのリストからご覧いただけるように、政府が憲法順守の義務を無視して日本国憲法の平和理念を否定している動き、広範囲の国民が反対する特定秘密保護法、沖縄の総意を無視する名護市辺野古への基地移転計画、条件が整わないままでの原発再稼働問題などの現在の日本の状況に、私たちが深刻な危機感を持っているためです。

この日には、3人の委員による講演と、7人の委員のほか共催してくださった国際平和研究所の高原孝生所長にも参加していただきパネル討論を行いました（委員の一人は健康上の理由があってメッセージによる参加でした）。おかげさまで、参加者の皆さんは最後まで熱心に聞いてくださいました。参加者からの質問に答える時間も取りました。

本書は、この記録と関連資料をまとめたものです。日本のすべての皆さんにとっての大切な問題です。本書を参考にして、一人ひとりがこれからの日本を自らの問題として考え、できるだけ行動してくださることを願っています。

武者小路公秀、土山秀夫、大石芳野、小沼通二、
池内 了、池辺晋一郎、高村 薫 (就任順)